

学校適正配置 千城台地区地元説明会

山崎課長あいさつ

ただいま紹介のありました千葉市教育委員会教育総務部企画課長の山崎でございます。

本日は、大変お忙しい中、多数の皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、皆様には平素より、千葉市の教育行政に対しましてご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

これより千城台地区の学校適正配置につきまして、説明させていただきますが、それに先立ちまして、本市の学校の現状及び今回の取り組みの背景・経緯などについて少しお話させていただきます。

本市の人口は、千葉市政施行以来、一貫して増加しており、現在では95万6千人を擁する大都市に成長してまいりました。

こうした中で、子供たちの数は、小学校では昭和56年度の9万2千人をピークに減り続け、平成12年度には約半分の4万2千人まで減少してまいりました。

また中学校も昭和61年度の4万6千人をピークに平成17年度には半分以下の2万1千人まで減少してまいりました。現在では、若干増加してきておりますが、それでもピーク時から比較すると、小学校では約6割、中学校では約5割程度とまさに少子化の典型的な状況が出ております。

市内の各学校もこの影響で多くの学校で小規模校化が進んできております。

ただ一方で、中央区の新宿や蘇我地区、美浜区の打瀬地区、緑区のおゆみ野地区など主にJR沿線の一部の地区では、逆に開発などにより大規模校（25学級を超える）となっている学校が出てきており、学校間の規模の不均衡が生じております。

学校運営は、やはり適正規模というのがあり、小規模になりすぎても、大規模になりすぎても、教育上あるいは学校運営上、様々な問題が生じてまいります。例えば、小規模校においては、①クラス替えができない②多様な人間関係、いわゆる切磋琢磨が十分でないなどの問題が出てまいります。

また、大規模校では、①生徒一人一人に目が行き届かなくなる②体育館やグラウンド、特別教室などの利用に制約がでるなどの問題点が生じてまいります。

本市では、このような小規模校、大規模校から生ずる様々な問題を解消するため、平成16年度から2年間にわたり、第1次学校適正配置に取り組み、平成18年4月には千葉市初の統合校「花島小学校」を開校いたしました。

しかし、この第1次学校適正配置の取り組みでは、いくつか課題もございました。①通学距離、小・中学校配置のバランスなど「規模だけでなく配置の面からの検討が必要であること」、②地域コミュニティとの整合性など「学校と地域の関係を考慮する必要があること」、さらには、③将来の人口推移と地域特性を考慮に入れるなど「将来を見据えた学校適正配置計画が必要であること」などを指摘されました。

これらの課題を踏まえ、平成18年度からは、第2次の取り組みをスタートさせ、平成19年10月に「千葉市学校適正配置実施方針」を策定し、改めて全市的な取り組みをスタートさせていただきました。

現在、この実施方針に従って美浜区の五つの地区で話し合いを進めておりますが、その内、真砂地区においては小学校4校・中学校2校を、小学校2校・中学校1校に統合し平成23年4月に開校することで合意され、先般教育委員会で正式に統合の決定をいたしました。また、高洲地区においても小学校2校の統合について決定し、それぞれ統合校の開校に向けての準備を開始しております。

なお、合意に至らない地域は、引き続き協議をしていただいておりますが、いずれの地域においても、最初のころは、①なぜ統合しなければならないのか（必要性）、②また統合したあと、教育環境が本当に良くなるのか（よくわからないとする意見が多く）。などの意見が多く出されており、まずこの点に十分時間をかけて議論をしていただく必要があると考えております。

このあと、担当より千城台地区の学校適正配置についてご説明いたしますが、ただ今申し上げた点についてなどを説明させていただ

き、さらにこの千城台地区の特性を考慮し、地元の意見や要望を十分聞きながら進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞ忌憚のないご意見をお聞かせいただきたいと思います。

おわりに、本日の説明会の開催にあたりまして、ご協力いただきました、地区連協の会長様、育成会の会長様、自治会長様、保育・幼稚園長様、そして本日の会場校の千城台南中学校長様（千城台西中学校）に感謝申し上げます、挨拶とさせていただきます。